

## 様式C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成21年 5月25日現在

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2006～2008  
課題番号：18530733  
研究課題名（和文） 「景観」を鍵概念とした地理学習における問題発見構造とカリキュラム開発  
研究課題名（英文） Problem Finding and Curriculum Development of Landschaft in Geographical Education  
研究代表者  
吉水 裕也（YOSHIMIZU Hiroya）  
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号：60367571

### 研究成果の概要：

本研究では、我が国の社会科およびイギリスの地理教科書の分析を通して、景観をどのように捉えるのか、また景観をどのように読み取らせるのかについて、学習問題の発見という視点から整理し、さらに小学校～高等学校段階に至る景観の読み取りカリキュラムを提案した。カリキュラム作成上の視点として、与える景観像、キャプション、記載方法という3点を設定した。またそれぞれの視点について、景観像は実際の景観に加え、スケッチから写真へ、キャプションは多いから少ないへ、記載は、記述、説明、判断へという順序性を設定した。

### 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成18年度	800,000	0	800,000
平成19年度	600,000	180,000	780,000
平成20年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	450,000	2,750,000

研究分野：人文社会系

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：教科教育，社会科教育，地理教育，景観，問題発見，課題発見

#### 1. 研究開始当初の背景

初等・中等段階の地理学習では、人文・社会諸科学の最新の研究成果を学習対象として、それらの内容のうち適切なものを分かりやすい形にして、学習内容とするべきである。言うまでもなく「景観」は、地理学の主要概念の一つであり、地理教育においても古くから景観に関する概念を教育内容に取り込むための取り組みがなされてい

るが、社会科学学習における児童・生徒の適切な問題発見内容と方法の開発という視点から「景観」を取り扱った研究はほとんどみあたらない。

そこで、「景観」に関する地理学の研究成果を地理学習に取り込みながら、初等・中等段階の地理教育において、「景観」概念の問題発見内容および方法の適切化を図ることは、一定の研究意義があると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、初等・前期中等教育段階の社会科地理的分野および後期中等教育地理歴史科地理（以下、地理学習）において、児童・生徒が発見・把握すべき学習問題の内容構成を、特に「景観」を鍵概念として明らかにすることである。

ここで言う児童・生徒が発見・把握すべき学習問題とは、小単元や一時間の授業を貫いて中核的に追究する問いという意味である。この学習問題は、児童・生徒が自ら追究しようという意欲を持続させると共に、内容教科である社会科・地歴科の性格ゆえ、教員によって計画的に配置されるものである。

## 3. 研究の方法

本研究は、主に以下の3点から構成されている。1点目は、景観読解に関する地理的技能をどのように設定するか。2点目は、景観読解と言語力育成をどのように関連づけるか。3点目は、以上2点を踏まえて、景観読解のカリキュラムをどのように作成するか、である。

本研究はそれぞれの部分について以下の研究方法をとっている。

1点目については、英国の中等地理教科書*Key Geography*の内容分析を行うことにより、景観読解に関連した地理的技能を整理した。

2点目については、石井實氏の地理写真読解、英国の初等地理教科書*Into Geography*および中等地理教科書*Key Geography*を分析することによって、地理教科書や地理写真読解と言語力育成の関係を整理した。

3点目については、上記2点を踏まえて、カリキュラム開発の視点と順序性を設定した。

## 4. 研究の成果

本研究は以下の手順で行われた。

- ① 景観を鍵概念としたときの地理的技能の位置づけを整理する。その際、イギリスのナショナルカリキュラム、スキームオブワーク、中等地理教科書を参考にしながら整理する。
- ② 景観を読み解かせる学習問題の内容構成に関する整理を行う。その際、英国初等および中等地理教科書の学習問題の内容構成を参考にしながら整理する。
- ③ 景観を読み解かせる学習問題を効果的に探究するための手立てを整理する。その際、言語力の育成を視点として整理を試みる。
- ④ 以上の結果より、景観を鍵概念とした

カリキュラムモデルの提案を行う。

それぞれの手順に沿って、研究成果を整理する。

(1) 学習指導要領に示されている地理的技能のうち、「景観」をみる観察眼は重要な技能の一つであるが、その技能を内容的に、また方法的に適切に習得させるために、イギリスの「ナショナルカリキュラム地理」、「スキーム・中等地理」、教科書記述を参考に検討した。成果は以下の通りである。

- ① 「ナショナルカリキュラム地理」では、学習プログラムに於いて景観の変化の過程と理由を問う地理的疑問と、写真等を用いる二次的資料の活用に関して景観を対象とした記述が見られた。
- ② 「スキーム・中等地理」では、単元12において、総合的メディアリテラシー学習的な内容で、景観写真を利用した学習が提示されていることが解った。
- ③ 分析した中等地理教科書*Key Geography Skills*では、景観写真の読み取りのためにチェックリストとキー質問の利用が行われ、それぞれが内容と方法に対応していることが解った。

(2) 英国初等地理教科書*Into Geography* (KS2) から景観写真や景観スケッチを用いて学習内容に関する問いを抽出し、分析した。

*Into Geography*では、課題、発展、個人研究というアクティビティーによって、記述→説明→解釈・判断の学習過程を組み込んでおり、さらに関連づけと比較を多用することによって、各学習過程で設定された問いを解決しやすくする工夫がなされていた。これらのアクティビティーに対して、子どもたちが実際にどの程度の「書く活動」をしているのかについては、実際の授業実践を観察するなどして、実態を把握しなければならない。

また、中等段階の地理教科書の分析を併せて行うことによって、記述、説明、解釈・判断のどの内容を、どの学校段階で重視しているのかも明らかになると考えられる。

さらに、生産景中心の内容から、山野正彦氏が1980年代末からの景観や場所に関する研究内容の展開として、「①テキストとしての景観読解、②ポストモダンの都市景観、特に消費景観の批判的考察、③「空間の生産」論との接合、④景観研究と「他者」の政治学との接合、⑤「景観」と「場所」の記述、⑥「ヘテロトピア」概念の使用」という内容をあげていることにも対応し、消費景など、これまでの社会科地理学習に

においてあまり扱われてこなかった景観に関する学習内容の枠組みを整理する必要があることを指摘した。

(3) わが国の学習指導要領、英国ナショナルカリキュラム地理 (KS3) および英国中等地理教科書 *Key Geography Skills* (KS3) の内容分析を通して以下のことがわかった。

わが国の中学校学習指導要領社会編地理的分野では、

① 「地域の規模に応じた調査」において論理的思考を促す内容が設定されているが、それらの内容をどのように記述するのかについては触れられていない。

英国ナショナルカリキュラム地理 (KS3) では、

② 「地理的探究と技能」において、探究過程や地理的質問に関する内容が書かれており、具体的な例示がある点でわが国の学習指導要領より一歩踏み込んだ内容になっている。

*Key Geography Skills* の「文章記述」「探究」単位では、

③ キーワード、キーセンテンス、キークエストションの利用を一貫して推奨しており、これらを用いて場所の記載に関する演習を多く行わせている。

④ 比較を地理における重要な技能と位置づけており、具体例を通して比較を行わせている。

⑤ 定番の視点を設定したライティングフレームを用いて、記載内容の構造化を行わせている。

⑥ アンケートを用いた一次資料の獲得と、ライティングフレームを用いて結果を記載させることを重視している。

⑦ 地理的探究の重要ステージとその発表について重視している。

⑧ 問題発見、仮説、検証、結論という探究過程を習得させ、文章化させていることなどから「書く」活動を重視している。

これらの学習活動の中で、「書く」ことが重視され、それによって言語力の育成がはかられている点は、わが国の社会科地理的分野における言語力育成の際に参考にできる点であることがわかった。

(4) これらを踏まえて景観読解に関する問題発見構造とカリキュラムを提案した。

#### ① 景観像に含める要素

景観像を用いて地域性や社会を認識させるために、景観像の直接観察や多くの景観写真が用いられてきた。景観像の観察や景観写真の有効性を否定する者はいないと思われる。しかし、例えば景観写真が地理写真として有効に機能するには、様々な要素

を備えていること必要である。

また、小学校から高等学校までの社会系地理教育を考えたときに、景観像観察や景観写真の提示の仕方にも段階的な工夫が必要となる。

景観像から景観を読み取り、社会の仕組み等がどのように景観像に反映されているのかということを学習するためには、景観について一定の内容が読み取れるものを学習材として提供する必要がある。

また、景観像から景観を読み取り、そこに社会の仕組みがどのように反映されているのを学習するためには、景観像の読み取りが単なる記述ではなく、「説明」になっていなければならないことは、石井氏の指摘からも明らかである。ただし、これは地理学研究とし求められていることであり、学校教育における地理学習では、記述から説明へと段階を追って発展させていけばよい。

#### ② 景観写真の読み取り内容と方法

事象間の関係性を読み取ることができる写真が地理写真としての条件であった。するとそこには、二つ以上の地理事象や社会事象が写し込まれている必要がある。一枚の写真に一つの事象しか写し込まれていない場合には、複数の写真を組んで用いることになる。このような使い方をすることを前提に、景観を読み解く際の、学習材としての景観像提示のしかたについて素案を提示した。

(内容) 内容は、地理事象や社会事象が含まれていることが前提となる。地理事象であれば、位置・分布、場所、自然環境、空間的相互依存関係、地域といった地理学五大テーマのようなものが想定される。さらに、それらのうち生産景だけではなく消費景をも内容としていく必要がある。それらの内容から社会の仕組みが読み取れるものとなっており、因果関係などの関係性が読み取れるものが良い。また、一つの像では読み取れない場合、複数のものを組みあわせて提示する必要がある。

(方法と順序性) 上記の内容を読み取らせていくためには、比較(時間軸や季節間で比較して変容を見る垂直比較、場所間での違いを見る水平比較)、関連づけ、批判などの方法を用いて、一般的共通性や地方的特殊性を把握させる。

また、順序性としては、小学校段階から高等学校段階へ進むにつれ、その割合を変化させていく必要のあるものがいくつかある。それらについて整理を試みた(表1)。

表1 景観の読み取り方法と順序性

	小学校	中学校	高校
方法	比較, 関連づけ, 批判		
提供する景観像	実際の景観, スケッチ	→ 実際の景観, 写真	→ 実際の景観, 写真
キャプション	多い (読み取り視点の設定, 読解)	← → (キャプション創造)	少ない
記載	記述	説明	説明 (判断)

(筆者作成)

第1に、提供する景観像である。与える情報量と学習者が読み取ることができる情報量考えて、小学校中学年ではスケッチを中心に与える。この場合、与えたい情報を選択することができるという利点がある。これは景観像から読み取るべき内容を視点として与えることにもなる。学年や学校段階が上がるにつれて、情報量が大きい写真へと切り替えていく。また写真から簡単スケッチをさせると、情報が見つけやすい。

第2に、キャプションである。読み取りの視点を明確に与えるためにも、小学校段階ではキャプションの量を増やす。学校段階が上がるにつれてキャプションの量を減らし、学習時にキャプションを創造させる。

また、小学校から中学校段階では、*Key Geography*で用いられているようなキークエスチョンを配置し、内容的な読み取りの視点を明確に示す。

第3に、社会認識形成および言語力育成の視点からも、小学校では観察に基づいた内容記述をすることに力点を置く。中学校では、事象間の関係性を説明すること、さらに高等学校では、記述・説明したことをデータにして判断する段階までの内容を織り込む割合を高める。また、学習者に一定の思考枠組みを作らせるために、説明のための文章を書くフレーム開発を行う必要がある。

これらの順序性を踏まえて、具体的に単元プランや授業プランを作成していくことが今後の課題となる。

## 5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)  
①吉水裕也(2007)社会科地理的分野における言語力育成—英国地理教科書 *Key Geography Skills* をてがかりにして—, 岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要第6集, pp. 239-251. (査読なし)

②吉水裕也(2007)「景観」を鍵概念とした地理的技能, 岐阜聖徳学園大学紀要教育学部編 第46集, pp. 29-41. (査読なし)

< URL >

[http://www.shotoku.ac.jp/tosyo/lib-hashima/publication/pdf/kyoiku46\\_03.pdf](http://www.shotoku.ac.jp/tosyo/lib-hashima/publication/pdf/kyoiku46_03.pdf)

〔学会発表〕(計3件)

①吉水裕也(2008)地理授業における言語力育成—教科書掲載景観写真の分析から—, 2008年8月, 兵庫地理学協会夏季研究発表大会, 於: 西宮市大学交流センター

②吉水裕也(2008)「景観」を鍵概念とした地理授業における問題発見構造—言語力育成を視点としたイギリス初等地理教科書分析より—, 2008年7月, 日本地理教育学会, 於: 三重大学

③吉水裕也(2007)地域の問題発見・解決に地理教育はどのように貢献できるか, 2007年8月, 人文地理学会 第8回地理教育研究部会, 於: 岸和田市浪切ホール

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉水裕也 (YOSHIMIZU Hiroya)  
兵庫教育大学・大学院学校教育研究科・准教授  
研究者番号: 60357571

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし